

大会日程 第1日 11月11日(土) 13:00~20:30

■受付開始 12:30 ~ [沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス 奏楽堂 1Fロビー]

■公開講演会 [奏楽堂ホール]

13:00	開会の辞 挨拶	(一社) 東洋音楽学会会長 遠藤 徹 沖縄県立芸術大学音楽学部長 金城 厚
13:20 14:20	公開講演会 「沖縄民謡のアーカイブ」	宮沢 和史 (シンガーソングライター 沖縄県立芸術大学非常勤講師)

■公開シンポジウム [奏楽堂ホール]

14:20 15:00	シンポジウム「三線製作とその伝承の課題」 パネリスト: 宮沢 和史 平田 大一 (沖縄文化芸術振興アドバイザー) 仲嶺 幹 (沖縄県三線製作事業協同組合) 司会: 小西 潤子 (沖縄県立芸術大学)
---------------------	--

■公開演奏会 [奏楽堂ホール]

15:20 16:10	公開演奏会 沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻 (歌三線、箏曲、舞踊) 解説: 金城 厚 (沖縄県立芸術大学)
---------------------	---

■第34回 田邊尚雄賞授賞式、定時社員総会 [奏楽堂ホール]

16:20 16:40	第34回田邊尚雄賞授賞式 受賞者 大内 典 受賞対象 『仏教の声の技: 悟りの身体性』 (京都: 法蔵館、2016年3月)
16:50 17:30	第6回定時社員総会

*総会終了後、懇親会場ラ・フォンテへ徒歩で移動します。

■懇親会、田邊尚雄賞受賞祝賀会 [ラ・フォンテ]

18:30 20:30	懇親会、田邊尚雄賞受賞祝賀会
---------------------	----------------

大会日程 第2日 11月12日(日) 9:00~17:00

- 受付開始 8:40~ [沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス 一般教育棟1F エントランスホール]
- 研究発表 9:00~ [一般教育棟3F A会場:301教室 B会場:303教室 C会場:大講義室]
- 書籍販売・休憩室 [一般教育棟3F 302教室]

研究発表1			
	1-A (301教室) 司会:高瀬 澄子	1-B (303教室) 司会:澤田 篤子	1-C (大講義室)
9:00	シュムコー、コーリン・クリスティナ 三味線を用いた協奏曲の分析的研究——日本の伝統楽器を紹介するための手段を中心に——	丹羽 幸江 真言宗南山進流の明神講式から祝詞の旋律を考える	[セッション] 近代日本のラジオ放送が届けた音楽文化 三島 わかな (代表) 酒井 健太郎 長嶺 亮子 遠藤 美奈
9:30	鈴木 良枝 バリのガムラン音楽の定量的分析—ゴン・クビヤールの演奏を事例に—	太田 暁子 義太夫三味線独習書『浄瑠璃三味線 ひとり稽古』の五線譜化	
10:00	多和田 真理 琉球古典音楽野村流工工四における歌と三線の「ずれ」——二揚様式の比較考察を中心として——	曾村 みずき 薩摩琵琶歌《本能寺》の詞章の変遷と節付けの特徴	
10:30-10:45 休憩			
研究発表2			
	2-A (301教室) 司会:梅田 英春	2-B (303教室) 司会:小塩 さとみ	
10:45	高橋 美樹 田辺尚雄における沖縄・八重山諸島音楽現地調査(1922年)の成果と社会的還元 —沖縄・日本本土をめぐる〈媒介者〉として—	仲辻 真帆 1930年代に議論された作曲理論と歌唱法 —『音楽研究』(共益商社書店発行)を手がかりに	* 11:00終了
11:15	澤田 聖也 沖縄市のロックミュージシャンから見た米軍基地とライブハウス—90年代前後を比較して—	村山 佳寿子 宮城道雄の自筆譜にみられる記譜の特徴	
11:45	栗山 新也 1990年代以降の三線音楽へのまなざしと三線文化の変化	竹内 直 松平頼則の創作における採譜の位置づけ	

12:15-13:15

昼食休憩

研究発表3			
	3-A (301教室) 司会: 藤田 隆則	3-B (303教室) 司会: 横井 雅子	3-C (大講義室)
13:15	海野 るみ 「我々の合唱は音楽ではない」 —実践者の語りにみる「音楽」概念と日常性	神野 知恵 伊勢大神楽を通して聴く瀬戸内海の島々のサウンドスケープ	〔セッション〕 北インド古典音楽の形成過程におけるペルシア音楽の影響に関する共同研究 田中 多佳子 (代表) 井上 春緒 二宮 文子
13:45	彭 泓 現代中国の新仏教歌曲について	小林 敦子 「阿波踊り」の変容における三味線の位置づけの変遷	
14:15	三代 真理子 クレズマー音楽の復興プロセス—復興者と演奏レパートリーの観点から—	角 美弥子 イタコの唱えごとにおける伝承元について	

14:45—15:00

休憩

研究発表4			
	4-A (301教室) 司会: 高松 晃子	4-B (303教室) 司会: ギラン、マツ	4-C (大講義室)
15:00	カリマン、ウメトバエワ ソ連崩壊後のクルグズ共和国とカザフスタンにおけるアケン芸芸	松村 智郁子 明治期の「ものいふ器械」—蠟管蓄音機と紙腔琴	〔セッション〕 植民地台湾(1895-1945)における日本伝統音楽の実践についての考察 劉 麟玉 (代表) 徳丸 吉彦 小塩 さとみ 福田 千絵
15:30	鈴木 麻菜美 宗教舞踊と音楽の展開にみるディアスポラの文化的影響—オーストリア・ウィーンのアレヴィーを例に	梅田 英春 戦前の大正琴の輸出に関する一考察—名古屋輸出玩具工業組合の設立とその役割—	
16:00	増野 亜子 パリのムスリムの梓太鼓—宗教的マイノリティの音楽文化	福岡 正太 楽器資料のフォーラム型情報ミュージアム構築の試み	
16:30	丸山 洋司 ミャンマー古典音楽の青銅ゴングの製作過程—伝統的な技術と現代における変化—		

17:00 閉会の辞 大会実行委員長 小西 潤子 [大講義室]